

課程 全日制

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2	学年	1	科	全学科
使用教科書		標準 現代の国語 （第一学習社）							
補助教材等		標準 現代の国語 学習課題集 （第一学習社） 意味から学ぶ常用漢字 （第一学習社）							

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

- （１）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- （２）論理的に考える力や豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。
- （３）言葉のもつ価値への認識を深め、読書から自己を向上させ言語文化の担い手として社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 「国語」はすべての学びの基礎となる大切な授業です。高校での学びや社会生活を豊かにするために必要な国語力を身につけてください。積極的な授業参加を期待します。
- この授業では「読む」「書く」活動だけでなく、「話す」「聞く」活動も行います。自分の考えをどのように他者に伝えるか工夫を凝らし、表現力を磨きましょう。
- 国語の基礎的な学力を高めるため、漢字練習帳や教科書準拠課題集を使って家庭学習をしましょう。繰り返し学習することが大切です。
- 国語力を伸ばすことは、短期間で効率的にできることはありません。日頃から読書に親しみ、語彙力を増やし、表現の幅を広げましょう。知らない言葉に出会ったら辞書で調べることで豊かな日本語の力が身につきます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を増やし、文章に含まれる情報を適切に理解し取り扱うことができる。	目的や場に応じた情報収集を行い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の考えを深めることができる。	目的や見通しをもって学習活動に参加し、積極的に自己の考えや感性を深めようとするができる。
主な評価方法	・定期考査	・定期考査 ・話し合いや発表などの場面での観察	・授業への取り組み ・話し合いや発表などの場面での観察 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	オリエンテーション		2	・図書館オリエンテーションを通して、高校図書館の利用方法を学ぶ。	
	5	世界を広げる	「なぜ本を読むのか」(又吉直樹)	6	・筆者の考える読書の効用について、文章構成をもとに理解し、自分に照らして考えを深める。 (全時：読・聞・話・書)	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 (a) ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。(b) ・読書の意義と効用を理解し、本に親しもうとしている。(c)
		人間と文化	「『間』の感覚」(高階秀爾)	5	・対比表現に着目して文章読解する。 (全時：読・聞・話・書)	・文章に含まれている情報を相互に関連付けながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。(b)
		言語活動①	待遇表現(敬語の学習)	6	・敬語表現を意識した言葉遣いを理解する。 (全時：読・聞・話・書)	・相手、目的、場面に応じた言葉遣いを理解している。(a)
	6	社会と人間	「弱いロボットの誕生」(岡田美智男)	9	・「弱いロボット」の開発意図を理解し、人との間に生まれた関係性について考えを深める。 (全時：読・聞・話・書)	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。(b) ・動画と本文を比較し、わかったことを説明している。(c)
二 学 期	7	人間と文化	「ステレオタイプの落とし穴」(原沢伊都夫)	9	・ステレオタイプとは何かを説明するための論展開を把握し、筆者の主張について理解を深める。	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。(b) ・本文を読んで考えを深

					(全時：読・聞・話・書)	め、実社会から題材を求めて発表している。 (c)
	8	言語活動② 書いて伝える	書き方の基本 レッスン (作文の書き方)	9	・表記、表現の基本を理解し、意見作文の書き方を学ぶ。 (全時：読・聞・話・書)	・表記、表現の基本を理解している。(a) ・意見作文の書き方を理解し、実践している。 (b)
	9	現代と社会	「黄色い花束」(黒柳徹子)	8	・コソボの話題と筆者の子供時代の話題との関係を把握し、子供たちに対する筆者の思いについて考えを深める。 (全時：読・聞・話・書)	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、筆者の思いを読み取っている。(b)
	10	言葉が開く世界	「言葉遣いとアイデンティティ」(中村桃子)	8	・人間関係を調整する「言葉」と「言葉遣い」の役割について、具体的事例とともに理解を深める。 (全時：読・聞・話・書)	・言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解している。(a) ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、筆者の思いを読み取っている。(b)
	11	社会と人間	「人はなぜ仕事をするのか」(内田樹)	8	・本文で使われている「パス」という言葉の意味を考え、筆者が述べる仕事の本質について考察する。 (全時：読・聞・話・書)	・話し言葉と書き言葉の違いを理解している。 (a) ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、筆者の思いを読み取っている。(b)

合計 70時間

課程 全日制

教科	国語	科目	言語文化	単位数	1	学年	1	科	全学科
使用教科書	新編 言語文化 （数研出版）								
補助教材等	新編 言語文化 準拠ワーク （数研出版）								

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

- （１）社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深められるようにする。
- （２）論理的に考える力や豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。
- （３）言葉のもつ価値への認識を深め、読書から自己を向上させ言語文化の担い手として社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 「国語」はすべての学びの基礎となる大切な授業です。高校での学びや社会生活を豊かにするために必要な国語力を身につけてください。積極的な授業参加を期待します。
- この授業では古文や漢文を学習します。古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、作品の背景を理解し、古典の世界に親しみましょう。
- 国語の基礎的な学力を高めるため、教科書準拠課題集を使って家庭学習をしましょう。特に古典は繰り返し学習することで力がついてきます。
- 国語力を伸ばすことは、短期間で効率的にできることはありません。日頃から読書に親しみ、語彙力を増やし、表現の幅を広げましょう。知らない言葉に出会ったら辞書で調べることで豊かな日本語の力が身につきます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、古典を読むために必要な知識を身につけ、言語文化に対する理解を深めることができる。	古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方を知り、自分の考えを深めることができる。	目的や見通しをもって学習に参加し、積極的に自己の考えや感性を深めようとするすることができる。
主な評価方法	・定期考査	・定期考査 ・話し合いや発表などの場面での観察	・授業への取り組み ・話し合いや発表などの場面での観察 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
三 学 期	11	「ことば」を 吟味する	「舟を編む」 (三浦しをん)	6	・一つ一つの言葉にある意味を吟味することの大切さを知る。 (全時：読・聞・話・書)	・作品内容を理解し、登場人物の心情を読み取っている。(b)
		受け継がれる 古典	「羅生門」 (芥川龍之介)	7	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉える。 (全時：読・聞・話・書)	・文章の構成を捉え、表現技法の効果を理解している。(a) ・作品内容を理解し、登場人物の心情を読み取っている。(b) ・作品の感想を積極的に共有し、自分の考えを深めている。(c)
	12	古文の世界 を楽しむ	古文入門(歴 史的 仮 名 遣 い、いろは歌)	3	・古文を読むために必要な基礎知識を学ぶ。 ・有名な古典作品について、冒頭部分を読む。 (全時：読・聞・話・書)	・古文を読むために必要な知識について理解している。(a) ・様々な古典作品を音読し、古典に親しもうとしている。(c)
			「児のそら 寝」(宇治拾遺 物語)	3	・古文に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 (全時：読・聞・話・書)	・古文を読むために必要な知識について理解している。(a) ・作品内容を理解し、登場人物の心情を読み取っている。(b)
	1	現代にも生 きる教え	「高名の木登 り」(徒然草)	5	・古文に慣れるとともに、現代に通じる教訓を知る。 (全時：読・聞・話・書)	・古文を読むために必要な知識について理解している。(a) ・登場人物の言葉の意味を理解している。(b) ・話の内容を自分の経験と結び付けて理解している。(c)
	2	日本語の中 に生きる漢 文	漢文入門(訓 読のきまり)	3	・漢文を読むために必要な基礎知識を学ぶ。 (全時：読・聞・話・書)	・漢文を読むために必要な返り点などの知識について理解している。(a)
			格言	3	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われる言葉が漢文に由来することを知る。 (全時：読・聞・話・書)	・漢文を読むために必要な再読文字などの知識について理解している。(a)
		漢詩を味わ う	漢詩 「春暁」(孟浩 然) 「春望」(杜 甫)	5	・表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々の思いを読み取る。 (全時：読・聞・話・書)	・漢詩の構成や押韻など基礎的な知識について理解している。(a) ・漢詩に込められた思いを読み取っている。(b)

合計 35時間

課程 全日制

教科	国語	科目	言語文化	単位数	1	学年	2	科	全学科
使用教科書		新編 言語文化 （数研出版）							
補助教材等		新編 言語文化 準拠ワーク （数研出版） 意味から学ぶ常用漢字 （第一学習社）							

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

- （１）社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深められるようにする。
- （２）論理的に考える力や豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。
- （３）言葉のもつ価値への認識を深め、読書から自己を向上させ言語文化の担い手として社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 「国語」はすべての学びの基礎となる大切な授業です。高校での学びや社会生活を豊かにするために必要な国語力を身につけてください。積極的な授業参加を期待します。
- この授業では古文や漢文を学習します。古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、作品の背景を理解し、古典の世界に親しみましょう。
- 国語の基礎的な学力を高めるため、教科書準拠課題集を使って家庭学習をしましょう。特に古典は繰り返し学習することで力がついてきます。
- 国語力を伸ばすことは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から読書に親しみ、語彙力を増やし、表現の幅を広げましょう。知らない言葉に出会ったら辞書で調べることで豊かな日本語の力が身につきます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	言葉には、文化の伝承、発展、創造を支える働きがあることを踏まえ、古典を読むために必要な知識を身につけ、言語文化に対する理解を深めることができる。	古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方を知り、自分の考えを深めることができる。	目的や見通しをもって学習に参加し、積極的に自己の考えや感性を深めようとすることができる。
主な評価方法	・ 定期考査	・ 定期考査 ・ グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・ 授業への取り組み ・ グループでの話し合いや発表などの場面での観察 ・ 提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	オリエンテーション		1		
		「ことば」を吟味する	「舟を編む」 (三浦しをん)	6	作品内に出てくる「西行」を例に、言葉の成立には文化的背景があることを確認する。 馬締と西岡のやりとりから彼らが目指す辞書『大渡海』はどのようなものであったかを理解する。 (全時：読・聞・話・書)	・ 作品内容を理解し、登場人物の心情を読み取っている。(b) ・ 「自分が編集したい辞書とはどのようなものか」を分かりやすく説明しようとしている。(c)
	5	現代にも生きる教え	『徒然草』 「ある人、弓射ることを習ふに」	4	・ 古文に慣れるとともに、現代に通じる教訓を知る。 (全時：読・聞・話・書)	・ 古文を読むために必要な知識について理解している。(a) ・ 話の内容を自分の経験と結び付けて理解している。(b)(c)
	6	故事と成語	「虎の威を借りる狐」	4	・ 漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われる言葉が漢文に由来することを知る。 (全時：読・聞・話・書)	・ 漢文を読むために必要な知識について理解している。(a)
二 学 期	7 8	記録する文学	『沖縄の手記から』 (田宮虎彦)	6	・ 戦後の社会状況や文化的背景と、その時代に特有の語句の意味を調べる。 ・ 近現代にはどのような社会情勢があり、その中で書かれた戦争文学にはどのようなものがあったかを確認する。 (全時：読・聞・話・書)	・ それぞれの作品が成立した背景を踏まえたうえで、各作品が伝える内容をおおむね理解することができている。(a)(b) ・ 時代背景を理解するために自ら調べようとしている。(c)
	9	昔と変わらない人の心	『伊勢物語』 「芥川」 「筒井筒」	8	・ 登場人物についての確に捉え、古典的な価値観と現代的な価値観の両方を踏まえ解釈する。 (全時：読・聞・話・書)	登場人物について捉え、現代的な価値観を踏まえて自分なりの感想を述べられている。(a)(b) 周囲の考えを参考にしながら話し合っている。(c)
			『葉桜と魔笛』 (太宰治)	6	・ 「葉桜」「魔笛」という言葉が作品内でどのように機能しているかを確認する。 ・ 口笛が聞こえてきた経緯を整理する。 (全時：読・聞・話・書)	・ 作品の展開を踏まえたうえで、自らの解釈を矛盾なく説明することができている。(a)(b) ・ 学習課題を踏まえて周囲と協調しながら話し合いに取り組んでいる。(c)

合計 35時間

課程 全日制

教科	国語	科目	文学国語	単位数	1	学年	2	科	全学科
使用教科書		文学国語(数研出版)							
補助教材等		文学国語準拠ワーク(数研出版) 意味から学ぶ常用漢字(第一学習社)							

1 学習の到達目標

文学作品の読解を通して言葉の特徴や使い方を知り、語彙を豊かにするとともに人間性を豊かにする。

- (1) 内容・構成・展開をとらえ、登場人物の人間性や社会とのかかわりを考察する。
- (2) 著者の言葉遣いの特徴や表現力を学び、実社会に必要なコミュニケーション能力を高める。
- (3) 登場人物の思想、心情を読み取り、自己の人間性を豊かにする。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 「国語」はすべての学びの基礎となる大切な授業です。高校での学びや社会生活を豊かにするために必要な国語力を身につけてください。積極的な授業参加を期待します。
- この授業では「読む」「書く」活動だけでなく、「話す」「聞く」活動も行います。自分の考えをどのように他者に伝えるか工夫を凝らし、表現力を磨きましょう。
- 国語の基礎的な学力を高めるため、漢字練習帳や教科書準拠課題集を使って家庭学習をしましょう。繰り返し学習することが大切です。
- 国語力を伸ばすことは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から読書に親しみ、語彙力を増やし、表現の幅を広げましょう。知らない言葉に出会ったら辞書で調べることで豊かな日本語の力が身につきます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	文体の特徴や修辞を学ぶことで、言葉遣いや表現方法を身につけることができる。	作品の内容・構成・展開を捉え、さらに登場人物の心情や社会とのかかわりを考察できる。	積極的に授業に参加することで、自己の感性を高め、他者との関わりを通して人間性と高めることができる。
主な評価方法	・定期考査	・定期考査 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業への取り組み ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
二 学 期	10	文学の扉	『山月記』 (中島敦)	8	・ 李徴の心情を読み解く作業を通して、言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを実感する。 ・ 主体性をもって粘り強く根拠立てて物語設定の考察に取り組む。 (全時：読・聞・話・書)	・ 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(a) ・ 人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察できている。(b)(c)
	11	平成の小説	『鍋セット』 (角田光代)	6	・ 作品に共感したり、疑問をいだいたりすることを通して、読書の意義と効用についての理解を深める。 ・ 作品内容を踏まえ、自らの経験をスピーチする。 (全時：読・聞・話・書)	・ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(a)(b) ・ 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿ってスピーチをしようとしている。(c)
三 学 期	12	昭和初期の小説	『山椒魚』 (井伏鱒二)	8	・ 山椒魚の考え方や行動を正確に理解したうえで、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 (全時：読・聞・話・書)	・ 考えを整理して山椒魚の考え方や行動に対する理解を深めている。(a)(b) ・ 率先して周囲と協調し、考えを整理して話し合いに取り組んでいる。(c)
		詩歌	『永訣の朝』 (宮沢賢治)	3	・ 妹への心情描写を抜き出し、そこに込められた思いを考察することによって、言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを実感する。 (全時：読・聞・話・書)	・ 宮澤賢治の妹への心情や兄妹のつながりを粘り強く考察している。(b)(c)
	1 2 3	大正の小説	『こころ』 (夏目漱石)	10	・ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める。 ・ 「明治」という時代性を考察する。 (全時：読・聞・話・書)	・ 『こころ』の主題を考察する作業を通して、作品内容を解釈することができている。(b) ・ 『現代日本の開化』で述べられる「明治」という時代性を踏まえたうえで、『こころ』の解釈を深めることができている。(b)(c)

合計 35時間

課程 全日制

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書		文学国語(数研出版)							
補助教材等		文学国語準拠ワーク(数研出版) 国語必携パーフェクト演習三訂版(尚文出版)							

1 学習の到達目標

文学作品の読解を通して、多様な文体に触れ言葉の特徴や適切な使い方を知り、語彙を豊かにするとともに表現力や人間性を豊かにする。

（１）実社会に必要な国語の知識や理解力、思考力を身に付けるようにする。

（２）論理的に考える力や豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。

（３）言葉のもつ価値への認識を深め、読書から自己を向上させ言語文化の担い手として社会にかかわろうとする態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○「国語」はすべての学びの基礎となる大切な授業であり、社会生活を豊かにするために必要な国語力を身につけることを期待する。自らの意思を持った、積極的な授業参加を望む。

○国語力を伸ばすことは、短期間で効率的にできることではない。日頃から文字、文章、読書に親しみ、語彙力を増やし多様な表現に触れて欲しい。未知の言葉を辞書で調べることや、自分らしい表現方法を身につけることを期待する。

○社会人として働くために、また上級学校へ進学して深い研究をするために、コミュニケーション能力は必要不可欠である。能力向上のために、作品中の人物の心について考察する、的確な表現方法を知ることが必要である。受動的に作品に関わるのではなく、能動的に活動して欲しい。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	様々な文体の特徴を捉え、語彙を増やすとともに、新たな視点からの読解力を身に付けることができる。	作品中の人物の心中を文章表現から考察することができる。	積極的に授業に参加し、感性を高めると共に、他者の意見を自己に反映させることで人間性に深みを持たせることができる。
主な評価方法	・定期考査	・定期考査 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業への取り組み ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4 5	平成の小説	「ひよこの 眼」 (山田詠美)	8	・主人公の気持ちを表現から読み取り、「彼」との関りからどのようにタイトルに結びついていくかを理解する。 ・自分の高校生活と照らし合わせ、自分の感じていることを見つめる。 ・感想や意見を作文にする。 (全時：読・聞・話・書)	・語彙量を増やせている (a) ・内容を的確に捉え、要旨を把握し、自分の生活と結び付けて考えを表現できる。(b)(c)
	6 7	昭和中期の小説	「野火」 (大岡昇平)	12	・場面ごとの主人公の心情を、状況から読み取る。 ・題名の意味について考える。 ・極限状態の中であらわれる人間性について考える。 ・戦争文学に触れることで、平和について考え、自分の意見を作文にする。 (全時：読・聞・話・書)	・語彙量を増やせている。(a) ・要旨を把握している。(b) ・よりよく生きることについて考え、文章表現できる。(c)
二 学 期	8 9	大正の小説	「檸檬」 (梶井基次郎)	10	・主人公の行動とその裏の心情を読み取る。 ・檸檬に与えられた意味は何なのかを想像してみる。 (全時：読・聞・話・書)	・語彙量を増やせている。(a) ・要旨を把握している。(b) ・心の不可思議さについて、自分の経験をたどって考えられる。(c)
	10 11 12	明治の小説	「舞姫」 (森鷗外)	30	・文語文に触れ、現代語に訳しながら内容を把握する。 ・最終的に主人公の取った行動についてその是非を考察する。 ・自らの考察に根拠を持って文章表現する。 (全時：読・聞・話・書)	・語彙量を増やせている。(a) ・文語表現を理解している。(a) ・要旨を把握し主人公の取った行動について自らの考えに根拠を持って説明できる。(b)(c)
三 学 期	1	海外の小説	「掟の門前」 (カフカ)	10	・翻訳された文章に触れ、内容を理解する。 ・門番と男の人物像を理解する。 ・掟や門番が象徴しているものは何か考える。 (全時：読・聞・話・書)	・語彙量を増やせている。(a) ・要旨を把握している。(b) ・主人公の取った行動について自らの考えを説明できる。(c)

合計 70時間